

公共図書館 展示

あなたの好奇心を刺激する！？
図書館イベントご紹介

昨年度から今年度にかけて県内公共図書館が主催した自慢のイベントについて調査を行い、調査結果をもとにイベントの 카테고리ごとの代表館を選びました。取材や資料提供などの協力を得て各図書館の「今」を感じていただく自慢イベントを紹介しました。



<アンケート調査 「特色のある事業・イベント」について 平成24年8月実施>

県内の公共図書館を対象に、各図書館ならではの工夫をこらしたユニークな事業や人気のイベントについて調査した結果、概ね以下のように分類されました。

- 1 親子で楽しめる催し
- 2 大人のための教養講座や講演会など
- 3 こどもを対象とした読み聞かせなど
- 4 「創る」「伝える」楽しさを体験
- 5 映画や音楽会（エンターテインメント）
- 6 「こわい図書館」を楽しむ催し
- 7 図書館を知るためのイベント
- 8 図書館まつり（複合的な催し）

これらのイベントの中から特にユニークなものを、以下の部門別にパネル展示により紹介しました。

<本への誘い；POPの世界>

毛呂山町立図書館の『「本の帯」コピーライター賞』を取り上げました。



県内では最初の実施となるもので、毛呂山町立図書館は今年で2回目となるそうです。

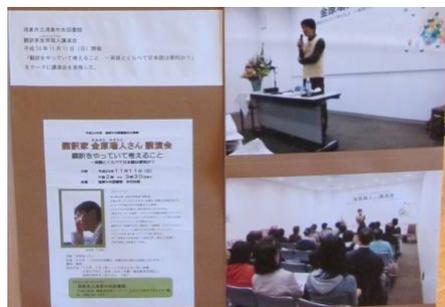
子どもから大人まで、自分の好きな本、感動した本を選んで、紹介文を考え、思い思いのイラストを付け、本の帯を作成しています。

大賞が『あいしてくれてありがとう』の帯を考えてくれた小学生に贈られたほか、「本の帯ユニーク賞」、「本の帯ビジュアル賞」、「特別審査委員賞」、「アイデア賞」など、思わず手に取って読みたくなる作品ばかりです。

<おとなの文学しこうを高揚する講演会・文学講座>

4図書館で開催された大人向けの講演会・文学講座を紹介しました。

作家で雑誌発行人の落合恵子氏の講演「本との出会い・本との再会」(入間市立図書館)。



翻訳家で法政大学教授の金原瑞人氏の講演「翻訳をやっていて考えること～英語とくらべて日本語は便利か？」(鴻巣市立鴻巣中央図書館)。

小説家の出久根達郎氏と文芸評論家の宮田穂栄氏の講演と対談「野口富士男と私」(越谷市立図書館)。

文学講座「大正から昭和への文学と龍之介」や文学散歩「田端文士村」(飯能市立図書館)。

いずれも、おとなの文学「しこう」を刺激するものでした。

<親子で体験! “遊びま書(しょ)!”>

和光市図書館では、書道に関するクイズやゲーム、親子でそれぞれ”へん”と”つくり”を書く共同制作で書道に親しむイベントが行われました。親子合作で書くことがポイントで、「親子一緒に楽しめる」と大好評でした。



参加者には”ポイントカード”も用意され、クイズやゲームで正解すると”ごほうびシール”が配られました。高得点獲得者には講師直筆の賞状が授与されたほか、参加した子ども全員に敢闘賞として小さな賞状が渡されました。

<夜の図書館でこわ~いお話>

夏に開催されたこわい話のおはなし会とそれに付随するきもだめしなどの様子の写真を、説明のキャプションとともに展示しました。

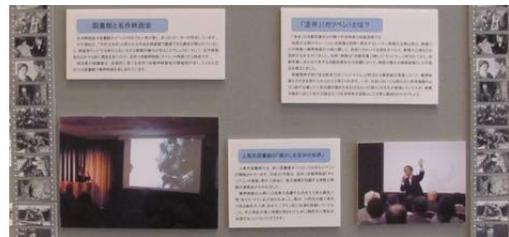


「図書館のこわ~いおはなし会」の鶴ヶ島市立中央図書館からはきもだめしで使用したお札とおはなし会のプログラムを印刷したうちわを、「図書館のこわ~いおはなし会」の蓮田市図書館からは蜘蛛のおばけの人形を借りることができ、多くの人々が注目していました。また、吉見町立図書館の「夜のおはなし会」で使用した、牛乳パックを加工して作った照明を撮影した写真をみて、参考にしたいと話していかれた方もいました。

<Let's Enjoy! 図書館エンターテインメント>

名作映画会は図書館の人気イベントですが、特に異彩を放つ活弁つき無声映画会を取り上げました。

埼玉県の図書館は、全国的に見ても開催例が多く、さいたま市立大宮図書館で毎年開催されているほか、以前はさいたま文学館と県立熊谷図書館の共催でも行われていました。



今回特に注目した上尾市図書館では、秋に図書館まつりという大きなイベントが開催されており、平成23年度は「懐かしき活弁の世界」と題して活弁つき無声映画「チャップリンの冒険」等の上映会と、東北復興を祈願する津軽三味線の演奏会が行われました。

それぞれ自慢のイベントだけあって、かなり頑張っているという印象を強く受けました。イベントに使用された道具や実物などをもっとたくさん展示することができれば、より臨場感をもって伝えることができたかと思います。